

## できなくていいんだよ②



先月に引き続き、「できなくてもいいんだよ」ということについて書くかと思えます。それは、たけの子祭りの様子を見ていて思うところがあつたからです。

10月14日に開催したたけの子祭りは、10月から入園したふたりの子も、なかなかたけの子に通えなかった別のふたりの子も来てくれ、8人の子も達とその親、地域の方々、スタッフ・ボランティア総勢50名が集まりました。

たけの子祭りは、普段の様子子どもたちが自分で決めたチャレンジを見てもらおうという趣旨で行っています。特に「野をこえ山こえ」は竹馬、ジャンプ、なわとびなど、それぞれの子ども達の挑戦に任せているところが大きいのです。普段から子ども達の様子を見ていたわたしたちは、その子が、ひとりひとりが、どんなにがんばっているかがよくわかっていきます。そして、できない自分に一番悔しい思いをしているのはその子自身なのだとということも。

年齢が同じ子、その子よりも小さい子がここまでできるのだから、うちの子もそこまでやれる、やって欲しいという親心はわかりますが、応援の中でそれを要求することは、その子の気持ち、もつと言えは生きる力を殺いでしまうことになりかねないのではないのかなと聞いていて思いました。

11月2日〜4日まで、森のようちえん全国交流フォーラムが鳥取県で開催され、わたしと事務局は2日間参加し、それぞれ分科会でとても有意義な学びを得てきました。わたしはその中

でも徳島県で田んぼと畑を中心にした活動で幼児と小学生を対象に教育している「トエック」の代表伊勢さんの話を聞いてきました。伊勢さんは「この子がこの子になるような」という言葉を使っていました。

引つ込み思案、泣き虫、おこりんぼう…どんな子でもいい、その子がその子になる、ということでは。

教育というのは子どもを指導方針に従って教え、育てることだと思っていまませんか？ そして、教えたことができるようになるか？ 指導力があると言われるのです。言うことを聞かない、反社会的な行動をする困った子と言われる子が言われた通りにやるようになることを指導力と一般的には言います。しかし、子どもは指導される対象ではないのです。

小学生対象の「トエック自由な学校」には基礎学習の時間はありません。自分たちがやりたいことを自由に取り組む場所なのです。

伊勢さんはいろんな面白いエピソードを話してくれました。ある時、朝、編み物をしようということになったそうです。そしたら、午後には竹を切っていたそうです。そう！編み棒作りから始まったのです。

またある時は、パン食い競争したいねということになったそうです。まずはパン作りから、ということ、みんなでああでもないこうでもない何回もパン作りを失敗し、最終的においしいパンができたそうです。それで、うれしくなって、みんなにごちそうしたら…、パンがなくなつて



トエックの小学生のアート作品

しまったそうです。

子どもは思ってもみない発想を広げていきます。そういう時、伊勢さんたちは「場がスイングしているね」と言うそうです。

ああ、わたしがやりたかったことはこれなんだなと思えました。

伊勢さんは「三度の飯よりミーティング」と言っていました。①話したい事 ②やりたい事 ③困っていることを子どもたちと毎朝話し合っているそうです。スタッフや保護者ともそういう時間をもっているそうです。

前にもこの話は聞いていたのですが、今回、伊勢さんの話をじっくり聞いて、その大切さを以前より強く感じて帰ってきました。

そして、休日なので子どもたちがいないとわかってはいたのですが、鳥取の帰り道、徳島のトエックの場所を実際にみってきました。とつてもいい空気が流れていましたよ。

トエックは創立してから30年近く経つそうです。たけの子も背伸びせず、できることから取りこんでいきます。 辺見妙子

寄付や支援をいただいた方々10月 順不同

支援金 渡部鋭幸様 富山正孝様 長岡孝男様

星啓一郎様 星すみ子様 手塚隆様 本田進様

加藤早苗様 東北文教大学様 土田英順様

中村光一様 伊藤昭代様 平沼ひろ美様

野浅俊夫様 樫本ツヤ様 齋藤喜久子様

伊作レイ様 志田紘子様 中田政江様 平沼荘司様

本橋千枝子様 大室知加子様 早坂牧子様

外山経子様 森雅英様 伊勢理咲子様

もち米 木村日出夫様

ボランティアの方は、次回掲載予定です。